

Nara Women's University

Vol.011

メタデータ	言語: ja-Latn 出版者: 奈良女子大学社会連携センター産学官連携推進部門 公開日: 2008-06-27 キーワード (Ja): さあ見学!産研学, シーズ集, やまとの元気企業, 産学官連携推進, 産学官連携推進室, 中小企業総合展, 奈良県科学技術フォーラム, 奈良女子大学研究紹介集 キーワード (En): 作成者: 社会連携センター メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/472



現在、「奈良女子大学 研究紹介集・シーズ集2004」の原稿を募集しております。科学技術フォーラムでも文部科学省 有本局長より「おもしろい!」とVOL.2の宣伝を講演壇上よりいただきました。冊数を重ねる毎に充実度をあげていきたいと思っています。ご協力よろしく申し上げます。

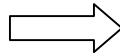
1. 「奈良県科学技術フォーラム」が開催されました。

平成16年10月18日に奈良ロイヤルホテルのにおいて「奈良県科学技術フォーラム」が開催されました。大学、高専、研究機関の研究者や製造業の経営者、行政関係者ら約400人が出席し、本学から久米学長、丹羽前学長をはじめ約20人が参加しました。以下に論旨をまとめます。

「今後の科学技術政策と科学技術が駆動する地域の活性化について」 文部科学省 有本建男氏

<はじめに>

企業の繁栄は高い技術力・高付加価値が必要で基礎研究(学会など)を活用してほしい。今日のフォーラムはこの連携を密にするためのもの。



地域が結集するという場合、今までと違う感覚で触れあうことが政策を含めて必要である。

<科学技術基本法と国立大学>

1995年に施行され、来年で満10年になる。本年4月より国立大学が法人化され、これまでの護送船団ではなく法人として戦略をたて、かなり一生懸命しなければ2010年の第三期科学技術基本計画の終了を待たずして生き残れないと思う。第三期科学技術基本計画は、心の豊かさ、文化のためのものとしたい。

<国と地方の科学技術に対する責務>

「魅力ある国づくり、地域づくり」のために地域が自ら考え行動する。国はこれを支援することが基本スタンスである。心の豊かさを国民の8割が望む統計に示されるように「豊かな国民生活と快適な地方・都市をどのように実現するか」がポイントである。



奈良の魅力をきっちりとおさえ、このブランドを次の世代の子どもたちに地元の誇れる産物としてしっかりと伝えてください。

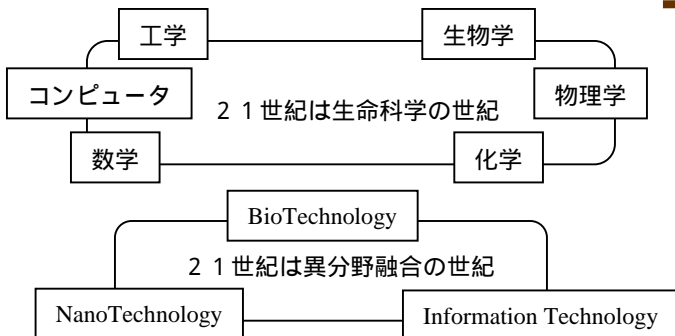
<伝統技術と先端技術の融合>

奈良県の例は残念ながら知らないが、日本刀の技術、伊万里焼の青色材料、江戸小紋の模様配置などの研究が先端技術と結びつき成功しつつある例などがある。奈良県のような地域にはこのようなことがかなりあるはずであり、我々はそのような研究をサポートしたいと思っている。技術の融合だけではなく、農水省や国土交通省といった省をまたぐ連携も推進する。

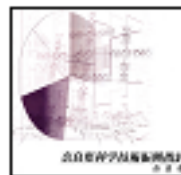
<大学の研究者の皆さんへ>

科学技術については啓蒙主義になってはだめで、科学技術に対して社会より信頼、支援されるよう努力していただきたい。オーディエンスに応じて話しをするという姿勢を忘れないでほしい。「象牙の塔」での研究では国民の科学技術に対する不安は拭い去れないし、支持も得られない。

<21世紀の科学技術>



「奈良県の科学技術振興施策について」 奈良県技術参与 山田康之氏



奈良県の科学技術振興施策について県作成のパンフレットに基づき順次説明がなされました。パンフレットについては産学官連携推進室にもありますが、県のHP <http://www.pref.nara.jp/sangyo/shishinkekka-pc.html> にも詳細が掲載されています。



2004.10.19
奈良新聞より転載

田口 康 氏（文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課地域科学技術振興室長）

- ・地域クラスター、都市エリア事業が文部科学省ファンド
- ・関係府省との連携（食品、バイオ・・・農水省との連携）
- ・組織間の壁を越え、産学官の共通の目標を持って、地域全体の活性化を図る。
- ・まわりをよく見ること。
- ・良い人材をどれだけ集められるか。

奥田 喜則 氏（奈良県商工労働部長）

- ・テクノロジーゾーンを奈良県産業活性プラザに設置。
- ・行政が企業へ出かけて行き、連携する必要性。

柳谷 勝美 氏（財団法人南都経済センター理事長）

- ・奈良は、古くから繊維と木材の町。
- ・奈良は、産業の発展が弱いので、地域クラスターの創生が急務。
- ・奈良にふさわしいもの。文化、科学の共生として、ITやバイオ。

新名 博彦 氏（奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授）

- ・植物材料に注目
 - 葛・・・骨粗鬆症
 - 杉の葉・・・花粉症
- ・遺伝子資源に注目
- ・環境

田中 隆治 氏（サントリー株式会社取締役）

- ・観光
- ・Identity を明確にし、強いものを創っていく必要がある。
- ・バイオ成功の秘訣
 - スピード、決断、オリジナリティー

大学展示コーナー



当日は大学（本学と奈良先端技術大学院大学は個別展示。その他の大学は大学連合としての総合展示。）高専・公設試験センターそれぞれが会場後方壁にPR展示を行いました。

山城 宗久 氏（経済産業省近畿経済産業局地域経済部長）

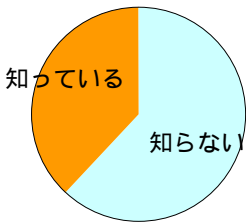
- ・地域にポテンシャルを持つ。
- ・環境、エネルギーをキーワードに、バイオに期待がかかる。
- ・指針に基づきアクションプランの確立。

2. 中小企業総合展2004 in KANSAI にブース出展しました。

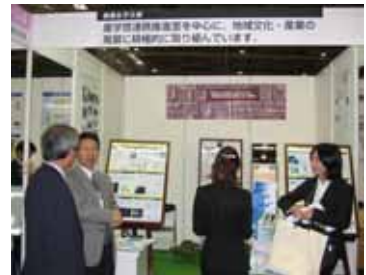
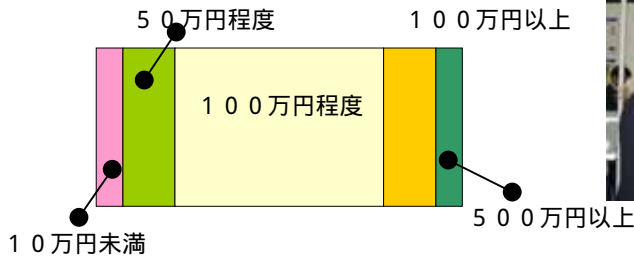
「中小企業総合展（大阪会場）」は、経済産業省中小企業庁、近畿経済産業局が主催し、これまで3つの展示会（「中小企業テクノフェア」「中小企業ビジネスフェア」「中小企業ビジネス・メッセ」）を統合した総合見本市です。10月27日 - 29日の3日間開催され、来場者数は主催者発表17046名です。「各種支援機関」のゾーンへの来場者数はかなり少なく、閑散とした感があり、ブースも予定よりも広くなるなど盛況とは言い難い3日間でしたが、知名度向上のためには地道が必要と積極的にPRしました。下記は会場でもらせていただいたアンケート結果（一部）です。



Q1：本学に産学官連携推進室が設置されていることをご存知ですか？



Q2：大学との共同研究を行う場合、1年間でどの程度の予算が必要とイメージされていますか？



Q3：奈良女子大学と聞いて思い浮かぶイメージを挙げてください。

関西の女子の東大・頭脳明晰・国立大学・身近い・旧制奈良女子高等師範・理学部・お茶の水女子大と双壁・OGがしっかりしている・才色兼備・熱心・女性・文系・古い・教育

「中小企業総合展（大阪会場）」は、主催者発表での来場者人数が17046名（3日間合計）でしたが、最奥に位置した大学ゾーンへの来場者はかなり少なかったように思えました。アンケートにもありますように、産学官連携推進室の存在もまだまだ希薄です。今後、効果的なブース出典を再検討しなければと思った次第です。

3. 『「さあ見学！産研学」やまとの元気企業』に参加しました。

この見学交流会は、奈良県下の大学・高専の教員を対象とし、企業現場の見学により、技術的・経営的（企業ニーズ）を把握し企業との連携を深めることを目的とされています。奈良県中小企業支援センターが主催され毎年3回程度開かれています。本年度第2回目は、株式会社飯塚製作所様（奈良県山辺郡）とニッタ株式会社様（奈良県大和郡山市）の見学となりました。飯塚製作所はマシニングセンタ、NC旋盤などによる機械加工を得意とする企業で、ニッタ株式会社は主力のゴム製品の他、タクトイルセンサ（圧力分布測定システム）、6軸力覚センサ、静電容量型力覚センサ、超薄型圧力センサ、光ファイバー式触覚センサなども取り扱ってられました。〈諸岡〉

4. 『「さあ見学！産研学」奈良先端科学技術大学院大学 見学交流会』に参加しました。

本年度第2回目となります大学見学会は奈良先端科学技術大学院大学で行われ、産学官連携活動の報告に始まり、バイオサイエンスの研究紹介として アフリカ原産の野生スイカ・シトルリンの研究と産業への応用〈明石欣也助手〉 環境浄化のための植物バイオテクノロジー〈仲山英樹助手〉 持続可能な社会をつくる植物バイオ〈新名教授〉の発表がありました。つづいてバイオ関連の研究施設見学（遺伝子解析質・NMR・植物温室・ベンチャービジネスラボラトリー）が行われました。産学官連携では基本方針として知的財産の管理、技術移転をと明確に打ち出されロイヤリティー収入を研究資金とするサイクルの確立を推進されているようです。またバイオ研究では祝物ハイテック株式会社を高山サイエンスプラザに立ち上げベンチャー企業として活動中でした。量産型のバイオ産業では水系ネットワークの問題が不可避であり質疑応答時間のなかったことが残念でした。〈重定・相馬・諸岡〉

5. 「奈良女子大学研究紹介集・シーズ集2004」の原稿募集中です。

先号の推進室レターVOL. 10にて今年度もまた表記研究紹介集を作成するにあたり教員の皆様にご協力をお願いしたい旨をご連絡いたしました。また、その後お一人づつにメールにて原稿募集のお願いをしております。12月15日締め切りにてお願いさせていただいております（年末・年始休業中に作業を当方にて実施するためです）ので、よろしくご協力お願いします。なお、現在までに60人の方には回答をいただいております。「前版と同じ」、または「遅延」などの連絡を含め上記期日をめどによりしくお願いします。〈藤野〉



連携推進室コーディネータへのクリスマスプレゼントとしてどうか年内には送ってくださいね。

6. 今後の予定

12月 1 - 2日 南都銀行ビジネスフェア（マイドーム大阪）

12月 2日 近畿地域アグリビジネス創出フェア

2月14日 学内研究フォーラム開催（「食と健康を科学する（仮題）」）



来年のバレンタインデーと覚えておいてください！！